

中央防災会議
第43回議事録

内閣府政策統括官（防災担当）

中央防災会議 議事次第

日 時：令和5年5月30日（火）8:20～8:35

場 所：官邸2階大ホール

1. 開 会

2. 議 題

- (1) 防災基本計画の修正について【決定事項】
- (2) 令和5年度総合防災訓練大綱について【決定事項】
- (3) 会長専決事項の処理について【報告事項】

3. 会長発言（内閣総理大臣）

4. 閉 会

○谷内閣府特命担当大臣（防災） おはようございます。

ただいまから、「中央防災会議」を開会いたします。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

時間も限られておりますので、各委員の御紹介は配付の名簿のとおりとさせていただきますが、昨年9月の開催以降、委員に就任しました日本銀行の植田委員、NHKの稲葉委員より、それぞれ一言御挨拶をいただきたいと思ひます。お願ひいたします。

○植田委員（日本銀行） 日本銀行の植田でございます。よろしくお願ひいたします。

○稲葉委員 NHK会長の稲葉でございます。よろしくお願ひいたします。

○谷内閣府特命担当大臣（防災） ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。3つの議題について一括して説明をした後、意見交換を行い、決定事項につき、お諮りいたしたいと思ひます。議題につきましては、中野内閣府大臣政務官から御説明いたします。

○中野内閣府大臣政務官（防災） 内閣府大臣政務官の中野でございます。

お手元の資料に沿って御説明申し上げます。本日は、防災基本計画の修正及び令和5年度総合防災訓練大綱が、この会議での決定事項です。

まず、議題1の「防災基本計画の修正」について御説明いたします。

資料1を御覧ください。今回は、最近の施策の進展を踏まえた修正として、多様な主体と連携した被災者支援、国民への情報伝達、デジタル技術の活用などについて内容を充実させております。

また、昨年9月に変更した日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る基本計画を踏まえた修正として、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の解説・伝達を盛り込んでおります。さらに、令和4年に発生した災害を踏まえた修正として、北海道知床で発生した遊覧船事故を踏まえた「旅客船の総合的な安全・安心対策の強化」等を盛り込んでおります。

次に、議題2の「令和5年度総合防災訓練大綱」について御説明いたします。

資料2を御覧ください。今年度の総合防災訓練大綱は、より実践的・効果的な訓練、防災訓練を通じた防災意識の定着や災害対応の改善、デジタル技術の活用等に重点を置いた内容としております。

最後に、報告事項でございます。会長専決事項の処理について御説明いたします。

資料3を御覧ください。前回の中央防災会議以降、本日までの間に計52件を会長専決いたしましたので、御報告いたします。案件の詳細は、資料3に記載いたしてあります。

説明は以上でございます。

○谷内閣府特命担当大臣（防災） ありがとうございます。

それでは、審議に移ります。議題につきまして、御質問などがございましたら、よろしくお願ひいたします。

まずは松本総務大臣からお願いいたします。

○松本総務大臣 2点発言申し上げます。

総務省では、本年3月、事故及び自然災害等による通信障害の発生時に通信事業者が遵守すべき指針として、「電気通信サービスにおける障害発生時の周知・広報に関するガイドライン」を策定いたしました。本ガイドラインに基づき、通信障害の発生時に障害の状況や復旧の見通し等について、関係機関及び国民に分かりやすい情報提供が行われるよう通信事業者に求めておりまして、通信事業者におかれては、対応を進めていただいているところです。

また、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震への対応については、積雪寒冷地での活動や陸路での進出が困難な北海道への進出といった課題に対応した緊急消防援助隊の活動計画を今年度中に策定し、迅速かつ適切な救助・救急活動が行われるようにしてまいります。

以上です。

○谷内閣府特命担当大臣（防災） ありがとうございます。

続きまして、日本消防協会・植田委員からお願いいたします。

○植田委員（日本消防協会） 地域防災力の強化について申し上げます。

日本海溝・千島海溝型地震をはじめ、津波からの避難には、地域に密着した消防団の役割が重要でございますが、近年、団員の減少が著しく、とうとう80万人を切る大変な事態になっております。団員確保に努力していますが、若い人たちが消防団についてあまりよく知らないということが大きな問題になっております。

そこで、消防団の具体的な活動、役割、地域の皆さんとの協力の実態、また、消防団員であることによる人のつながり拡大、生きがい、楽しさなどを若い人たちにもっと知ってもらえるよう、消防団のPRを強化することが重要と考えます。

消防団員の確保、女性防火クラブなど、幅広い皆さんとの協力体制強化は、国民の安全向上に必ずつながります。私たちも頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

○谷内閣府特命担当大臣（防災） ありがとうございます。

続きまして、大原委員からお願いいたします。

○大原委員 大原美保です。防災研究者の立場から、総合防災訓練について発言させていただきます。

新型インフルエンザ等感染症が、今月8日より5類感染症に移行しました。コロナ禍の社会においては、オンライン対応の技術などに進捗が見られましたが、集団や対面での防災訓練はなかなか実施できず、現場での実働体制の点検などを十分に実施できないことも多かったと思われまます。

今年に関東大震災から100年となる節目の年であります。今後の総合防災訓練に向けて、コロナ禍では十分に実施できていなかった訓練項目を検証いただき、引き続き感染予防には配慮しながらも、それらの訓練項目の不足を補い、より一層の防災力向上を図

れますよう、ぜひ御指導をよろしくお願ひいたします。

○谷内閣府特命担当大臣（防災） ありがとうございます。

続きまして、岡委員からお願ひいたします。

○岡委員 NTTの岡でございます。

まず、通信障害への対応につきましては、先ほどの総務大臣の御発言にありました通信障害発生時の周知広報も含めまして、政府の方針を踏まえて、NTTとしても鋭意対応に取り組んでいるところでございます。

続けて、総合防災訓練大綱案についてコメントさせていただきます。「デジタル技術を活用した災害対応に備えた、実践的なシステム操作訓練の実施」との記載がございましたが、訓練は非常に重要ではありますが、災害時しか使わないシステムですと、御利用される職員に広く習熟してもらうことが難しかったり、あるいはシステムの起動方法や使い方を忘れてたりして、いざ発災したときに利用開始に手間取ることもあろうかと思ひます。

今後導入されるケースにおいては、できるだけ普段使いで慣れているUIシステムにツールを組み込むなど、御考慮されるとよろしいかと存じます。

以上です。

○谷内閣府特命担当大臣（防災） ありがとうございます。

そのほか、ございますでしょうか。

それでは、決定事項である議題1及び議題2について、原案のとおりとすることよろしいでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

○谷内閣府特命担当大臣（防災） ありがとうございます。

御異議なしということで、原案のとおり決定させていただきます。

それでは、最後に報道の方に入室いただいた後、総理より御発言を願ひたいと思ひます。

（報道関係者入室）

○谷内閣府特命担当大臣（防災） それでは、総理、お願ひいたします。

○岸田内閣総理大臣 本日はお忙しい中、中央防災会議にお集まりいただき、感謝を申し上げます。

この1年間に振り返っただけでも、昨年7月から8月にかけての大雨や台風第14号、15号、年末年始の大雪、5月の連休中の石川県能登地方を震源とする地震など、大きな自然災害が発生しています。また、今週は台風2号の影響で全国広い範囲で大雨が降る可能性があります。激甚化・頻発化する災害への対応は先送りできない重要な課題です。

今回の防災基本計画の修正では、多様な主体と連携した被災者支援の実施や、昨年末に運用を開始した「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の迅速かつ正確な情報伝達などを盛り込みました。

また、令和5年度総合防災訓練大綱を決定したところ、より実践的・効果的な訓練、

デジタル技術を活用した訓練を行うとともに、訓練を通じた防災意識の定着に取り組んでまいります。

本年は、関東大震災から100年の節目の年に当たります。いま一度、災害への備えに思いを新たに、災害対策の一層の強化と国民一人一人の防災意識の向上に取り組まなければなりません。

各大臣におかれては、本日の決定事項に基づき、さらなる防災・減災対策の充実・強化に努めていただくとともに、出水期に向けて万全の体制を取っていただきますよう、お願いいたします。

○谷内閣府特命担当大臣（防災） ありがとうございます。

それでは、報道の方は御退出願います。

（報道関係者退室）

○谷内閣府特命担当大臣（防災） ありがとうございました。

本日の審議の内容などにつきましては、本日の閣議後の会見において私から発表することといたします。

それでは、これをもちまして、本日の会議を終了いたします。どうもありがとうございました。